

佐賀新聞 2010(平成22)年4月28日(水) 県内文化欄 文化時評2010 【美術】

9 さが文化 2010年(平成22年)4月28日(水曜日) 佐

県内文化

美術

野中 耕介

中が文化の復興、発展にまいり進んだ戦後という「時代」の高揚が伝わってくるようで、読んでいくうちに胸が熱くなる。中でも「佐賀の文化復興のめぐる状況が著しく多様化、複雑化した現在において、より大きな変化を見せ、問題となるであろうことは、実は郷土作家の「個」の確立ではないか。

「記憶」のいる・佐賀の美術家たち 佐賀県立美術館「レクシオン」による「展(主催)佐賀県文化団体協議会・佐賀県立美術館・佐賀県、県立美術館で5月23日まで開催中)の企画のために、佐賀県文化団体協議会(文団協)について学ぶ機会を得た。中でも「佐賀の文化復興の」ための五つの提言 佐賀の文化を考える(『新郷土』昭和49年9月号)などは、情理を尽くした優れた言説であり、一級の地方文化論として今もってその輝きと重きを失っていない。多くの示唆と刺激に満ちた内容のそれらは、

郷土で発表する意味問う

関係者の方々の話をうかがい、各種文献(やはり『新郷土』と『佐賀県文化年鑑』が中心になる)をあたってのだが、県内各文化団体の総体であり、前身である佐賀県文化協議時代(昭和35〜47年)から数えて長い歴史を誇る文団協について、その歴史、現況ともに、私が知ることができたのはごく一部ではない。けれども文献の行間から、郷土文化の充実を熱望した先人たちの熱気と、さらには日本

文化時評 2010

(県立美術館学芸員)